

横浜市立大学、八千代エンジ／横浜の海と海中デザイン報告会、3月18日に横浜市で
2016/03/04 日刊建設工業新聞 5ページ 442文字

横浜市立大学と八千代エンジニアリングは、横浜港大さん橋(横浜市中区)で共同研究を進めている海域環境改善調査の報告会「横浜の海と海中デザイン」を18日午後7時30分から大さん橋国際客船ターミナル(横浜市中区海岸通1)出入国ロビーで開く。両者は海を浄化し生物相を豊かにする取り組みを「海中デザイン」と名付け、新たなテクノロジーの創出を探っている。報告会では研究成果の報告とパネルディスカッションなどを予定している。入場無料。

横浜市大は教員地域貢献活動支援事業(協働型)「ブルーカーボン横浜プラットフォーム～山下公園前海域等における海域環境改善調査研究」(代表・大関泰裕教授)として、八千代エンジニアリングと共同で海の生物が持つ浄化能力と二酸化炭素(CO₂)の固定能力を高め、地球温暖化防止と海域環境改善に役立てる研究を進めている。

この研究では山下公園前海域で生物相調査・海中映像・深淺測量調査などを実施。両者は多くの生物が生息できる環境づくりを目指す「海中デザイン」を提案している。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.